

成立スト雖モ實際ニ於テ米國ニ於テ出生シタル子ハ多クハ米國文化ノ雰圍氣内ニ成長シ米國ヲ自己ノ郷土ト爲シ米國ノ思想ト精神トヲ體得スルモノナリ

(四) 更ニ實際上ヨリ考察スルトキハ太平洋沿岸諸州ニ於ケル日本人ハ單ニ歸化能力ヲ有セサル理由ニヨリテ各種ノ權利ヲ奪ハレ其生業ヲ失ヒ今ヤ殆ト其前途ノ處置ニ窮シツツアリ然ルニ本件決議案ハ更ニ進ンテ彼等ノ子孫ヨリ其當然享有スヘキ各種ノ權利ヲ剝奪シ將來ニ於テ人類ニ必須ナル向上的精神ト希望トヲ失ハシメ米國內ニ於ケル不幸ナル少數民族トシテ終始セシメントスルモノナリ

在米埴原大使ハ一月十五日國務長官「ヒューズ」ト面謁ノ際本問題ニ言及シ注意ヲ喚起シタルニ同長官ハ本件憲法修正案ノ通過容易ナラサルヘシトノ意ヲ洩シタルカ其後本案ハ何等進捗ヲ見スシテ第六十八議會閉會トナレリ

第十五章 一九二四年米國移民法制定ト紳士協約ノ廢棄

第一節 米國ニ於ケル移民制限ニ關スル二思潮

第一、一九二一年米國比例制限法ノ制定

一、「アルバート・ジョンソン」提出ノ移民制限法案

戰後歐洲ノ疲弊ニ伴ヒ東歐南歐諸國ヨリ米國ニ渡來スル移民ノ數激增スルト共ニ米國ニ於ケル經濟思想上竝ニ政治上論議ノ目的トナリ茲ニ歐洲移民問題ハ一般ノ注目ヲ惹クニ至レリ殊ニ戰後擡頭シ來レル「アメリカニズム」ノ思潮ハ米國ニ於ケル國民統一ノ完成ノ急務ナルコトヲ強調シ歐洲移民制限運動ニ對シ有力ナル根據ヲ與ヘタリ而シテ一九二一年比例制限法ハ此ノ移民制限思潮ノ表現トシテ採用セラレタル一時的應急措置ニ外ナラス

曩ニ一九一九年第六十五議會ニ於テ外國移民入國ニ對シ嚴重ナル一般の制限ヲ加ヘムトスル「バーネット」法案提出セラレタル以來一九二〇年第六十六回米國議會ニ於テモ數箇ノ同種法案ノ提出ヲ見タリ就中同年十二月六日華州選出下院議員「アルバート・ジョンソン」ハ官吏其他ノ特定ノ

例外ヲ除キニケ年間一切ノ外國人ノ入國ヲ禁止セントスル法案 (H. R. 14461) ヲ下院ニ提出シタリ

右「シンソン」案中其第四條 (a) トシテ

Sec. 4. (a) A citizen of the United States of twenty-one years of age or over, who is a resident of the United States, may, under regulations prescribed by the Secretary of Labor, apply to him for permission to bring into the United States or send for an otherwise admissible parent, grandparent, unmarried son under twenty-one years of age, unmarried or widowed daughter, grandson under sixteen years of age whose father is dead; and any alien who has declared, in the manner provided by law, his intention to become a citizen of the United States, may make like application in reference to an otherwise admissible husband or wife, unmarried son under twenty-one years of age, or unmarried or widowed daughter.

ナル一句アリ然ルニ帝國政府ニ於テハ該條項ノ如ク歸化ノ意思表示ヲ標準トシテ差別的規定ヲ設クルコトニ對シテハ一九一七年移民法制定ニ際シ特ニ米國政府ニ對シ抗議シタル所ナルヲ以テ同法案通過ノ見込アル場合ハ右ノ點ヲ適當ニ修正セシムルニ盡力スル様在米幣原大使ニ訓令セリ然ルニ其ノ後同案ハ十二月十三日修正ノ上下院ヲ通過シタルモ上院委員會ハ翌一九二一年二月二十一日「ジョンソン」案ヲ否決シタリ

二、「デリンガム」提出ノ法案

上院ハ「ジョンソン」案ヲ否決スルト共ニ其ノ代案トシテ當時懸案中ノ比例制限法案(十二月十一日「デリンガム」提出 S. 4627)ヲ「ジョンソン」案ノ修正トシテ採用シ本會議ニ報告セリ其ノ要旨次ノ如シ

(一) 外國ノ移民一ケ年ノ入國許可數ハ國勢調査ニ基ク米國在留各國人人口ノ五「パーセント」ヲ超ユルコトヲ得ス

(二) 官吏及其ノ家族従者、合衆國ヲ通過スル者、一時適法ノ入國ヲ許可セラレタル後接壤國ヲ通過シテ合衆國ヲ一地方ヨリ他ノ地方ニ赴ク者、旅行者、條約又ハ協約ニヨリ移民ノ人國ヲ制限セル國ノ人民ニハ之ヲ適用セス

其ノ後同案ハ上院ニ於テハ (一) 五「パーセント」ヲ三「パーセント」ト改メ (二) 國勢調査ノ年度ヲ一九一〇年ト明示シ (三) 歸化意思ヲ表示シタル外國人ノ妻子ニ對シ優先入國權ヲ與フルコトノ修正ヲ爲シタル上二月十九日同院ヲ通過シタルヲ以テ同案ハ上下兩院協議會ニ附セラレタル後二月二十六日議會ヲ通過シタルモ大統領「ウイルソン」ハ其離任前之ヲ握潰セリ

三、「デリンガム」法案ニ對スル帝國政府ノ態度

之ヨリ先右「デイルンガム」法案ニ關シ在米幣原大使ハ

(一) 第一條中 Provided, that preference shall be given to the wives and children of citizens or aliens now in this country who have applied for citizenship. ナル規定アルモ之ハ入國ヲ許可セラルヘキ同國人中ニ於ケル優先權ニシテ日本ニ對スル差別待遇ト認メ難ク

(二) 第二條中「バーセンテーシ」制限ノ例外トシテ (This provision shall not apply to:) ... aliens coming from countries immigration from which is now regulated in accordance with treaties or agreements. ノ條項ヲ存スルヲ以テ同法案ハ理論上又ハ實際上日本ニ關係ナキコトナルヘク從テ抗議スルノ理由乏シカルヘシトノ趣旨ヲ以テ電稟スル所アリタルカ政府ニ於テハ (一) 歸化申請外國人ノ妻子ニ對スル入國優先權ノ規定ハ日本人ニ對スル差別規定ニアラサルヘキモ中央立法ニ於テ歸化意思ヲ標準トシテ入國資格ヲ定ムルコトハ地方立法ニ惡例ヲ啓ク虞アリ又 (二) 理論上紳士協約ハ Agreement ニアラサルハ勿論ナルニ右條項カ同協約ヲ包含ストセハ紳士協約ヲ米國法ノ内容トスルノ結果ヲ來スモノニシテ同協約ノ精神ニ反スルノ虞アリ尤モ結果ニ於テハ同法案ハ大統領ニ於テ握潰シタルモ同様ノ法案ニシテ次期議會ニ提出セラル虞アルヘキ旨ヲ以テ豫メ同大使ニ内訓スル所アリタリ

四、「ジョンソン」再提出ノ比例制限法案

然ルニ一九二一年四月十八日「ジョンソン」ハ大體前議會ヲ通過シタル「デイルンガム」法案ト同様ナル比例制限法案 (H. R. 4075) ヲ第六十七議會下院ニ提出セリ

右「ジョンソン」案中ニ左記ノ如キ規定ヲ有セリ

(一) 第二條 (a) 中 (This provision shall not apply to:)... (6) aliens coming from countries immigration from which is regulated in accordance with treaties or agreements relating solely to immigration.

(二) 第二條 (d) 中ニ歸化ノ意思ヲ表示シタル外國人ノ妻子入國優先權ニ關シ Provided further, That in the enforcement of this Act preference shall be given so far as possible to the wives, parents, brothers, sisters, children under eighteen years of age, and fiancées, (1) of citizens of the United States, (2) of aliens now in the United States who have applied for citizenship in the manner provided by law, or (3) of persons eligible to United States citizenship who served in the military or naval forces of the United States at any time between April 6, 1917, and November 11, 1918, both days inclusive, and have been separated from such forces

under honorable conditions.

五、「ジョンソン」法案ト幣原大使ノ稟申

然ルニ該法案ハ大體原案ノ儘四月二十三日下院ヲ通過シ急速ニ上院ヲ通過スヘキ形勢アリシヲ以テ之ニ對スル態度ニ關シ幣原大使ハ大體左記ノ趣旨ヲ帝國政府ニ稟申セリ

(一) agreements 云々ノ除外規定ハ下院移民委員會ノ報告書及下院議事録ニ據ルニ紳士協約ヲ之ニ包含セシムルノ意思ナルコト疑ナク立法者ノ意思ニ依レハ我方ノ關スル限り何等本法ニ依リ制限ヲ受クル所ナク依然移民往來ノ自由ヲ原則トシ日米通商航海條約第一條ノ入國自由ニ關スル我方ノ根本主張モ傷ケラルコトナシ又一方ニ於テ此ノ規定アルノ故ヲ以テ直ニ紳士協約カ嚴格ナル意味ニ於ケル協約ナリトノ解釋ヲ生スルノ理ナク從ツテ本法案ノ成否如何ニ拘ラス必要アラハ何時タリトモ紳士協約カ日本側ノ自制的意思ニ出テタルモノナリトノ主張ヲ繰返スヲ妨ケサルヘシ又今日日本移民ノ取締ヲ帝國政府ニ委任スルハ不都合ナリト論スル者アリ我ヨリ進ンテ紳士協約ノ性質ヲ辯明シ本法案ニ異議ヲ挾ムハ故ラニ紳士協約ニ對スル一般ノ注意ヲ喚起シ日本移民ノ制限ハ米國ノ主權ヲ以テ之ヲ爲スヘキモノナリトノ論ヲ盛ナラシメ竟ニ加州問題ノ解決ニモ惡影響ヲ及ホスノ虞アルニ付此ノ際本法案ヲ默視シ法案通過後(イ)該法律ニ所謂

agreements 中ニハ紳士協約ヲ包含セサルハ勿論ナリト思考スルコト(ロ)但シ右法律ノ如何ニ拘ラス紳士協約ヲ引續キ有效ニ維持セントスル帝國政府ノ意思ニ變化ナキコトヲ米國政府ニ明カニスル爲公文ヲ送付スルコト適當ナリト思考ス

(二) 歸化意思表示者ノ家族ニ關スル規定ノ中(3)ハ新ニ追加セラレタルモノニシテ歸化能力ノ有無ヲ標準ト爲シ議事録ニヨルモ除隊日本人ノ家族ニ對シ備ヘムトスル趣旨ナルヤニモ見エ三「バーセント」制限ヲ歐洲移民ニノミ適用セントスル精神ニ矛盾シ面白カラサル規定ナルモ此ノ點ニ付抗議スルトセハ勢ヒ(一)ノ點ニ論及セサルヘカラサルコトナリ却ツテ日本側ニ不利トナル虞アリ又若シ三「バーセント」ノ制限ニシテ日本人ニ適用ナシトセハ全然日本人ニ關係ナク又日本人ニ適用アリトスルモ日本人ニ付テハ米國ノ兵役ニ服シタリト否トニ依リテ其ノ家族ノ入國ニ差別ヲ設ケスト云フニアリ日本人全體トシテノ差別待遇問題起ラサルニ付規定ヲモ默視スルコトヲ可トス

六、帝國政府ノ態度

政府ニ於テハ(一)ニ付テハ幣原大使ノ所見ニ同意シタルモ(二)ニ付テハ歸化能力ノ有無ニヨル標準ハ加州土地法ノ禍根ニシテ米國立法ニ於テ之ヲ踏襲スルハ成ルヘク防止スルヲ要スヘク又同項

Provided further 云々ノ規定ハ一部ノ入國者ニ優先權ヲ與フルノ問題ニシテ入國數ニ影響ナク從ツテ其ノ (3) ニアル eligible to citizenship ノ三字ハ米國側ヨリ視察シテ何ノ必要アリヤ甚タ了解ニ苦シム所ナリ而シテ加州土地法中既ニ問題トナリ日本國民ノ感情ヲ刺戟スル字句ハ之ヲ削除スルコト望マシキコトナリト認メタルヲ以テ國務省ニ之カ削除方交渉スヘキ旨幣原大使ニ訓令スル所アリタリ

七、「ジョーンソン」法案ノ成立

其後「ジョーンソン」法案ハ委員會ノ修正ヲ經四月二十二日下院ヲ通過シ上院ニ回付セラレタリ其間上院ニ於テハ繫屬中ノ「デイリンガム」案 (D. 87) ヲ下院通過案ノ代案トシテ採用シ五月三日之ヲ通過セシメ兩院協議會ニ附スルコトトセリ右上院通過案ハ下院通過案ト大同小異ナルモ右問題ノ點ハ次ノ如シ

1. Aliens from countries immigration from which is now regulated in accordance with treaties or agreements.
2. Provided further, That in the enforcement of this Act preference shall be given so far as possible to the wives and minor children of aliens who are now in the United States and have applied for citizenship in the manner provided by law.

即チ右ニハ歸化能力云々ノ規定ナシ然レトモ幣原大使ハ或ハ下院案ノ當該規定ノ復活ヲ見ルヤモ計ラレスト思考シタルヲ以テ五月十一日下院案ノ規定ノ無意味ナルコトニ關シ先方ノ注意ヲ喚起セムカ爲 eligible 云々ノ規定挿入ノ理由ヲ質問スル趣旨ノ覺書ヲ國務省當局ニ交附シ口頭ヲ以テ必要ノ説明ヲ加ヘタルカ翌十二日開會ノ協議會ニ於テハ此點ヲ考慮スル暇ナカリシモノノ如ク依然上院案ヲ棄テ下院案ニ復歸シ兩院ニ報告シ兩院ハ十三日之ヲ通過セシメ十四日大統領ノ手許ニ送附シ十九日大統領「ハーディング」ノ裁可ヲ經タリ (附屬書第百二號)

斯テ數年間問題タリシ移民比例制限法ハ茲ニ成立シ一九二一年六月三日ヨリ實施セラルルコトトナリタルカ同法ノ要點次ノ如シ

- (一) 一ケ年間ノ各國移民入國許可數ハ一九一〇年ノ國勢調査ニ基ク米國在留外國人人口ノ三「パーセント」ヲ超過スルヲ得ス
- (二) 官吏、通過旅客、觀光商業等ノ爲一時滞在スル者及接壤國居住者其他數種ノ部類ニ屬スル者ニ適用セス
- (三) 條約又ハ協約ニ依リ移民制限ヲ行フ國ノ移民ニ適用セス
- (四) 再渡航者、俳優、藝術家、宗教家、教師、僕婢等ニ付テハ割當數ニ滿チタル場合ニ於テモ入

國ヲ許可スルコトヲ得

八、一九二一年比例制限法ト紳士協約

紳士協約ハ國際法上協約ト其形式及性質ヲ異ニシ之ヲ協約ト稱スルハ妥當ナラサルモ米國議會及政府ニ於テハ協約ノ一種ト看做シ今回成立シタル比例制限法ノ例外規定ニ依リ同法ニヨル制限ヲ日本人ニ適用セサルコトトセリ從ツテ同法ハ日本人ニ何等關係ナキコトナレリ

九、比例制限法ノ期限延長

一九二一年移民比例制限法ハ素ト歐洲移民ノ激增ニ對シ應急ノ手段トシテ制定セラレタル過渡的立法ニシテ其ノ實施期限ヲ一ケ年間ニ限定シタルカ同法實施後數ケ月ヲ經テ一九二二年ニ入り效力終了期限ノ近ツクヤ「ジョンソン」ハ同法ノ效力ヲ更ニ一ケ年間延長セムトスルノ兩院決議案ヲ一九二二年二月十四日下院ニ提出シ同月二十日同院ヲ通過シタルカ上院ニ於テハ移民制限ニ關スル永久の立法ヲ爲スニハ十分ノ時日ヲ要スルカ故ニ一ケ年ノ延長ニテハ不十分ナリトシ之ヲ二ケ年ニ修正シ兩院協議會ニ附セラレタル後五月二日修正案議會ヲ通過シ同月十一日大統領「ハーディング」ノ署名ヲ經タリ

第二、排日立法ニ關スル組織的運動

一、加州排日協會其他ノ活動

前顯ノ如ク東部ニ於テ起リタル東南歐移民ヲ制限セントスル思潮ハ竟ニ一九二一年比例制限法ヲ制定セシメタルカ之ト同時ニ加州ヲ中心トスル日本移民排斥思潮ハ排日家ノ運動ノ結果漸次東部ニ侵潤スルニ至レリ曩ニ一九二〇年九月加州排日派ノ巨頭「フィーラン」一派ハ同年十一月ニ於ケル總選舉ニ際シ人民直接立法ニ依ル排日土地法案ヲ成立セシムルノ目的ヲ以テ同州各地排日團體代表者ヲ桑港ニ召集シ加州排日協會ヲ組織セリ同會ハ元ト「イニシアティヴ」法案ノ成立ニ努力スルニアリタルモ其直接目的達成後ハ更ニ進ンテ不同化人種ノ入國ヲ禁止スルニ足ルヘキ米國法律ノ制定ヲ爲サムカ爲全國的宣傳運動ヲ開始スルニ至レリ同協會ノ綱領次ノ如シ

- (一) 男女ノ別ヲ問ハス熟練若クハ不熟練労働者タルト又ハ小職人タルトヲ問ハス將來ニ於テ一切ノ日本移民ヲ絶對ニ排斥シ單ニ漫遊者商人學生藝術家教師等ニ限リ一時的滞在ヲ認ムルコト
- (二) 移民許可ノ決定ハ米國法ニ遵ヒ米國官吏之ヲ執行スルコトトシ其ノ決定權ヲ日本ニ委セル現狀ヲ改ムヘキコト

- (三) 米國政府ニ於テハ條約締結權ノ名ノ下ニ
 - (イ) 土地法制定ニ關スル州權ヲ侵犯シ又ハ
 - (ロ) 歸化權ナキ黃色人種ニ市民權ヲ與フルカ如キ違憲行爲ヲ爲スヘカラサルコト

(四) 現ニ適法ニ加州ニ在住スル日本人ニ對シテハ現在又ハ將來ニ於テ一般外國人又ハ歸化權ナキ外國人ニ對シ法律ヲ以テ禁止スル場合ヲ除キ公正ナル待遇ヲ附與シ適法ニ取得セル權利ヲ保護シ其ノ欲スル事業ニ從事シ得セシムヘキコト但シ土地所有又ハ借地ハ此ノ限ニアラス(第十一章一九二〇年加州土地法制定運動ト日米交渉ノ條參照)

然ルニ其ノ後華州其ノ他西部諸州ノ「アメリカン・リージョン」(American Legion)又ハ排日團體ニシテ之ニ倣ヒ類似ノ決議ヲ爲スモノ尠カラサリシカ同協會ハ之等他州ノ團體ト氣脈ヲ通シ全國的宣傳ヲ爲サムカ爲一九二一年初期ニ當リ加州内ニ於テ廣ク基金ヲ募集シ又同年ノ加州州會ニ於テハ同協會常設議長ニシテ上院議員タル「インマン」ハ日本人問題ニ關スル全國的宣傳資金ニ充當スル爲州豫算中ヨリ五萬弗ヲ支出スヘキ法案ヲ提出シ州會ヲ通過セシメタリ

斯テ加州排日協會ハ同年四月其ノ代表者「マクラッチー」(V. S. McClatchy)ヲ華盛頓ニ特派シ前顯協會ノ綱領ヲ認メタル「メモリアル」ヲ國務省及米國議會ニ提出セシムル等東部ニ於ケル宣傳ニ努力スル所アリタリ

二、其他排日派ノ動靜

右ト相呼應シテ「マサチューセツツ」州州會ニ於テハ加州排日協會ノ綱領ヲ贊認シ且大統領國務

省及米國議會ニ對シ該綱領ノ採用ヲ請願スル兩院聯合決議案(上院議員「シャーキー」提出)ヲ通過シ又加州州會下院ハ「ローゼンシャイン」ノ提出セル同様ノ決議案ヲ通過シタリ

次テ一九二一年四月十八日加州知事ハ各州知事ニ對シ加州ト同様代表者ヲ華盛頓ニ簡派シ日本移民絶對排斥確立ノ爲盡力セラレンコトヲ希望スル旨ノ勸誘狀ヲ發シ各州ノ協力ヲ要請セルカ之ト共ニ中央ニ於テモ米國議會議員「ハイルム・ジョンソン」及「ショートリッヂ」ハ一九二〇年加州排日土地法ト同様ノ法案ヲ成立セシメ又ハ詮議中ナル西部諸州ヨリ選出セラレタル議員ニ對シ日本人問題ニ對スル西部諸州ノ態度ヲ大統領ニ説明スヘキ委員ヲ定ムカ爲會合セムコトヲ求メ四月二十日加州ノ外「オレゴン」「ワシントン」「アイダホ」「ユタ」「ネヴァダ」「アリゾナ」「ニュー・メキシコ」「テキサス」「オクラホマ」「コロラド」「モンタナ」及「ネブラスカ」ノ十三州ヲ代表スル米國議會議員會議ヲ開催シ二十四名ノ實行委員ヲ選出セリ其ノ後六月十二日西部諸州選出米國議會下院議員ハ一ノ「ステートメント」ヲ作成シ加州選出下院議員「カルサ」之ヲ下院ニ提出セルカ其ノ要旨ハ生活及思想ヲ異ニシ同化性無キ外國人ノ移住ヲ絶對ニ拒絶スルハ西部ヲ開拓セル「バイオニア」ノ子孫ノ鞏固ナル決心ナリトシ加州其ノ他ノ排日土地法ノ憲法上適法ナルコトヲ辯疏シ且本問題ハ米國全體ノ問題ナルヲ以テ速カニ日本移民ヲ絶對ニ禁止スヘキ法律

ヲ制定スルノ必要アリト力説セルモノナリ

第三、一九二二—二三年米國議會ニ於ケル移民制限立法運動

一、移民制限ニ關スル諸法案

歐洲移民制限ト日本移民排斥トノ二潮流ハ彼此其ノ發展ノ徑路ヲ異ニセルハ前述スル所ニヨリテ明カナリ然ルニ前者ハ米國ニ於ケル *North* 型人種ノ増加ヲ計リ米國ノ國民的統一ヲ達成セントスルヲ基調トシ其ノ理論の根據ヲ米國ノ政治及文化ニ同化スル能力無シト認メラルル人種ハ全然之ヲ排斥スルヲ要ストノ點ニ求メタリ從ツテ西部ヲ中心トスル排日移民論ハ此ノ點ニ於テ東部ノ移民制限思潮ト一脈相通スルモノアルニ至リ一般移民法案中ニ日本人排斥條項ヲ包含セシメ排日目的ヲ達セントスルノ運動ニ鞏固ナル基礎ヲ與ヘタリ

一九二四年六月マテ效力ヲ延長セシメタル一九二一年比例制限法ハ其有効期限ノ到達ト共ニ消滅スヘキヲ以テ之ニ代ルヘキ永久的立法トシテ一九二二年第六十七回米國議會ニ數箇ノ法案提出セラレタルカ其中主ナル法案左ノ如シ

(一) 「ジョーンソン」案 (H. R. 12169)

下院移民委員長「アルバート・ジョーンソン」ノ提議ニシテ一九二二年六月二十六日下院ニ提出直

チニ委員會ニ附託セラル

(二) 「レーカー」案 (H. R. 12193)

下院委員「レーカー」ノ提案ニシテ一九二二年六月二十七日下院ニ提出委員會ニ附託セラル

(三) 「ジョーンソン」案 (H. R. 12237)

「アルバート・ジョーンソン」第二提案ニシテ一九二二年六月三十日下院提出委員會ニ附託セラル右三案中「ジョーンソン」第一案ハ比例制限數ヲ二「バーセント」ニ六百ヲ加ヘタルモノニ改メ日本移民ニ關シテハ現行法ト同シク條約又ハ協約ニ依リ移民制限ノ行ハルル國ノ移民ニ適用セサル例外規定ヲ設ケ日本人ハ比例制限ノ適用ヲ受ケサルコトトセリ「レーカー」案ハ比例制限率ヲ二「バーセント」ニ改メ且歸化權ナキ外國人ノ入國禁止ヲ明定セルカ例外トシテ條約ニ依リ移民制限ヲ定メ居ル國ノ外國人ニ適用セサルコトヲ定メ居レルモ紳士協約ハ條約ニアラサルカ故ニ同案ニ依レハ日本人ハ入國ヲ禁止セラルルコトトナルヘシ「ジョーンソン」第二案モ亦歸化權ナキ外國移民ノ入國禁止ヲ規定セリ

二、「ジョーンソン」第二提案ノ内容

前記三案中最有力ナリト認メラルル「ジョーンソン」第二案ノ要綱ヲ摘記スレハ左ノ如シ

(一) 移民及非移民

- (1) 移民ニアラサル外國人ノ部類左ノ如シ
 - (イ) 官吏其ノ家族及從者
 - (ロ) 商業觀光ノ爲一時滞在スル者
 - (ハ) 通過旅客
 - (ニ) 接壤國ヲ通過シテ米國內ノ一地方ヨリ他地方ニ赴ク者
 - (ホ) 歸化權アル外國人ニシテ接壤國ニ五ケ年以上居住セル者及其ノ同伴スル妻子
 - (2) 前記部類ニ屬セサル者ニシテ合衆國ニ來ル一切ノ外國人ヲ移民トス
- (二) 移民ヲA級及B級ニ區分ス
- (1) A級移民左ノ如シ
 - (イ) 合衆國市民ノ子タル未成年ノ移民
 - (ロ) 歸化權アル移民ノ再渡航者
 - (ハ) 歸化權アル移民ニシテ中米南米諸國ニ五ケ年以上居住セルモノ及其ノ同伴スル妻子
 - (ニ) 教育家、教師等ニシテ二ケ年以上引續キ其ノ職ニ從事シ該目的ノ爲入國セントスル者

(三) 入國規定

- (1) 無制限—非移民及A級移民ニ對シ入國ヲ制限セス
 - (2) 比例制限—歸化權アルB級移民ニ對シテハ比例割當數ニ依リ入國ヲ制限ス其ノ計算方法左ノ如シ
 - (ホ) 熟練労働者ニシテ労働大臣ノ入國許可ヲ得タル者
 - (ヘ) 前記(ニ)及(ホ)ニ屬スル移民ノ同伴スル妻子
 - (ト) 學生
 - (チ) 奴婢ニシテ歸化權アル者
 - (2) A級ニ屬セサル一切ノ移民ヲB級移民トス
- 一九一〇年米國國勢調査ニ基ク各外國人々口ノ二「パーセント」ニ六百ヲ加算セル數ヲ以テ一年度内ニ於ケル當該國B級移民入國許可ノ割當數トス
- (3) 禁止—B級移民ニシテ歸化權ナキモノニ對シ入國ヲ禁止ス
- (四) 領事證明書

海外駐在ノ米國領事ハ歸化權アル移民ニ對シ國別及級別ヲ明記セル證明書ヲ發給シ其半數ハ米

國船證明(米國船ニ搭乘ヲ要スルモノ)トシ他ノ半數ハ無制限證明(搭乘船舶ニ制限ナキモノ)トスヘシ

右「ジョンソン」案(H. R. 12227)ニ依レハ歸化權ナキ外國人ハ(一)移民ニアラサル部類ノモノ及(二)A級移民中歸化能力ノ條件ヲ必要トセサル者ヲ除キ總テ入國ヲ禁止セラルコトナルヘシ
三、諸法案ノ折衷案タル新「ジョンソン」案(H. R. 14273)

其後一九二二年末ヨリ翌二三年一月ニ互リ第六十七回米國議會ニ對シ前記ノ外現行移民比例制限法ヲ更ニ嚴重ナラシメントスル改正法案數種提出セラレ何レモ移民委員會ニ附託セラレ之ト同時ニ委員會ハ本問題ニ關シ「ヒヤリング」ヲ開キ審議シ居リタルカ委員會内部ノ意見容易ニ纏ラス結局一九二三年二月初メニ至リ委員會ノ試案トシテ之等諸法案ニ對スル一ノ折衷案トモ目セラレヘキ一案(H. R. 14273)ヲ作成シ二月九日委員長「アルバート・ジョンソン」ノ名ニ於テ一旦下院ニ提出シ直ニ委員會ニ回付シ委員會ハ之ヲ本會議ニ報告スルコトセリ(附屬書第百三號)同法案ノ要旨次ノ如シ

(一) 移民トハ米國外ヨリ米國ニ來ルヘキ一切ノ外國人ヲ指ス但シ
(1) 官吏及其ノ家族從者

- (2) 旅行者又ハ商用、遊覽ノ爲一時滞在スル者
 - (3) 米國內ヲ通過スル者
 - (4) 接壤國ヲ通過シテ米國內ノ一地方ヨリ他地方ニ赴ク者
 - (5) 善意ノ船員ニシテ職務ノ爲米國ニ上陸スル者
- ヲ除外ス

(二) 移民ヲ比例制限適用移民ト比例制限不適用移民トニ區別シ

- (1) 比例制限適用移民ニ對シテハ一ケ年間ノ入國許可數ヲ一八九〇年米國在留各外國人人口調査ニ基キ其「パーセント」ニ四百ヲ加算シタル數ニ制限シ
- (2) 比例制限不適用移民ニ對シテハ無制限トス

(三) 歸化權ナキ外國移民ニ付テハ再渡航者、宗教家、大學教授又ハ學術的職業ニ從事スル者並ニ其ノ妻子及學生ヲ除クノ外入國ヲ禁止ス

四、「ジョンソン」案ノ不成立

右「ジョンソン」案(H. R. 14273)ニ存スルカ如キ歸化資格ノ有無ヲ標準トスル差別的規定ニ對シテハ帝國政府ニ於テ終始一貫抗議ヲ續ケ來レル關係アルヲ以テ在米佐分利代理大使ハ豫テノ政

府ノ訓令ニ基キ二月十日竝ニ同月十二日國務省係官ニ面會シ公然トナク其ノ注意ヲ喚起スル所アリ然ルニ二月十五日下午院委員會ハ當時同委員會ニ於テ審議中ノ「アルメニア」避難民入國許可案(S. 4092)ノ前文ノミヲ保存シ其本文ト「ジョンソン」案ノ本文トヲ置換シ可決ノ上下院ニ報告セリ而シテ委員會ハ其贊成報告書(二月十五日附)中日本移民ニ關シ次ノ要旨ヲ述ヘタリ

(一) 一億一千万ノ人民竝ニ其ノ自然ヲ保護スルハ米國民固有ノ權利ニシテ國務省ハ右固有ノ權利ニ干涉シ又ハ干涉スル外國ヨリノ申出ヲ承認スルコトナカルヘク議會亦右ノ權利ヲ些少ナリトモ危殆ナラシムルカ如キ法律ヲ制定スルコトナカルヘシ而シテ合衆國大審院ハ既ニ東洋人ハ米國ニ於テ歸化權ヲ享有セサルコトヲ決定セルヲ以テ移民委員會ニ於テハ單ナル覺書ナリト諒解セラルルニ拘ラス日米通商條約附屬書ニ依リテ從來數年間或種ノ效力ヲ有シ來レル所謂紳士協約ヲ訂正スルノ規定ヲ提議スルヲ以テ妥當ノ措置ト思惟ス

(二) 委員會案トシテ歸化不能外國人ノ入國禁止ニ對シ(一)再渡航者(二)教師、僧侶、學者及其妻子(三)學生ノ場合ニ例外ヲ設ケタルハ委員會トシテ此例外ハ所謂紳士協約ヲ明カニシタルモノニシテ該協約ヲ法律ト爲スコトニ依リ初メテ最困難ナル問題ヲ容易ニ終結セシムルヲ得ヘシト信シタレハナリ

然ルニ議會閉會期切迫シ諸種ノ法案輻輳セル爲通常順位ニ依リテハ到底本期中ニ兩院ノ審議ヲ完了スルコト困難ナルニヨリ「ジョンソン」等ハ下院領袖等ニ了解ヲ求メ本案ニ對シ優先順位ヲ與ヘ議事ニ上サンコトニ努力シタルモ竟ニ下院ニ提出セラレタル儘三月初第六十七回議會閉會ヲ見ルニ至レリ

第二節 一九二四年米國移民法制定ト日米交渉經過

第一、概 說

一九二三年十二月五日華州選出共和黨議員「アルバート・ジョンソン」ハ米國下院ニ歸化不能外國人入國禁止條項ヲ含ム移民法案ヲ提出シ之ト同時ニ歸化不能外國人ノ子ノ國籍ニ關スル憲法改正案モ亦「ジョンソン」等ニヨリ夫々上下兩院ニ提出セラレタルヲ以テ在米埴原大使ハ十二月十三日國務長官ニ面會之ニ對スル米國政府ノ注意ヲ喚起スル所アリタルカ同大使ハ更ニ一九二四年一月一日附帝國政府ノ訓令ニ基キ移民法案中ノ排日條項ニ關スル覺書ヲ作成シ國務長官ニ之ヲ提示シ懇談ヲ遂ケ尙憲法改正法案ニ付テモ更ニ同長官ノ注意ヲ促シタリ然ルニ「ジョンソン」ハ勞働長官「デヴィス」ノ修正意見ヲ參酌シテ自己ノ原案ニ多少ノ修正ヲ加ヘタル新改正法案ヲ